

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時40分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領良く行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受けて質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式どちらか述べてから質疑に入ってください。

固有名詞等は発言に十分注意してください。

なお、傍聴者に申し上げます。議場内ではお静かにお願いいたします。

---

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位1番、藤井要君。

（1番 藤井 要君 登壇）

○1番（藤井 要君） それでは、一般質問を行う前に西伊豆町の集中豪雨災害にあわれた皆様方にお見舞い申し上げます。

また、2020年の五輪が東京に決定されたことを受け、今後の日本経済の回復が松崎町の経済発展に繋がっていくことを期待して、通告に従い壇上より一般質問を行います。

いま世界各地では気象の変化による季節外れの台風や気温上昇による氷河の融解、海面上昇、干ばつ、豪雨などが頻繁に起きています。干ばつによる水不足で苦しんでいる地域があるかと思えば、7月18日のような西伊豆町に甚大な被害をもたらした集中豪雨など、もはや異常現象とは言えない状態になっています。

地球温暖化が叫ばれてから久しく海水温の上昇から日本近海での台風の発生、大型化、局地的豪雨など昔では考えられなかったような気象の変化が世界中で起きております。

先の西伊豆町での豪雨災害が私たちの町の松崎でいつ起きても、また何回起きても不思議ではありません。

町長は西伊豆町の災害では、7月18日に西伊豆町災害対策本部での対応を見てきたと思いますが、当町では日頃行っているであろう机上訓練、図上訓練との違いを肌で感じてきたことと思います。ぜひその体験をお聞かせ願いたいと思います。

私たち議員も復旧活動に参加しましたが、年齢的、体力的な面からみても若いボランティアの方々と同じような仕事ができませんでした。

松崎町地域防災計画書を見ても156ページに動員応援対象者を町議会と記載されているだけであり、詳しいことが出ていません。議員の役割を定めた方が良いと感じたところでもあります。

そこで、今回町長や職員が体験されたことを踏まえて、当町の防災対策の現状と課題についてお聞きします。

次に、県が公表した第4次地震被害想定について当町の現状と課題について質問します。県は6月27日、第4次地震被害想定を公表しました。当町では広報まつぎ8月号で詳しく掲載してありました。「アクションプログラム2013」では経過期間の10年でレベル1の津波による人的被害を8割減少させることを目指すとしています。

資料によりますと、駿河南海トラフ側でのレベル1の津波では死者数1300人、レベル2では3100人と想定しています。これらのことを受け、津波対策施設の整備方針が示されておりますが、参考資料を見ますと松崎町のレベル1津波対策の整備後、いわゆる防潮堤の嵩上げ、那賀川河口堰水門の建設になろうかと思いますが、これらの減災効果が達成されたとしてもレベル2での被害はレベル1の施設整備前の被害より大きいと想定されます。レベル1整備前の対応策として当町では避難タワーを5年間で3基の建設予定をし、25年度に1基の予算が付いています。レベル1対策後での浸水域を想定した建設地になろうかと思いますが、進捗状況はどうなっているのでしょうか。

また、減災効果を達成させるためには那賀川河口堰水門の建設、防潮堤の嵩上げが必要になると考えますが、県への水門建設に対する要望、嵩上げに対する住民説明と当面の対応とともに中長期的な事業計画をお聞かせ願います。

次に、まつぎ荘の事業運営について質問いたします。まつぎ荘は平成18年に建替えられ、19年、20年度は黒字でしたが、21年度以降4期連続の赤字で、累積損約1億3000万円、借入金7億円、資産11億円、基金7000万円であります。

金融バブルがはじけ経済が低迷し、観光業の斜陽化傾向である中での建替えに町民の中でも疑問を抱く声があったと伺っています。

2008年9月に起きたリーマンショック、2011年の東日本大震災による経済の低迷等が4期連

続の大きな要因であったと思います。まつぎき荘は町長がおっしゃっている悪い星の下に生まれたかわいそうな子であるかもしれません。

私も議員になり、再三にわたり経営改善に向けての発言もしてまいりましたが、当局は小手先だけの改善策を講じるだけで抜本的な改善に取り組んできたとは到底思えません。インターネット販売、自動車学校との宿泊提携、関連機関への誘客、人件費削減等に取り組んできたことですが、これらの対策にも限界が見えてきていると感じます。

町長は在任4年間にどのような方針で臨み、改善策を打ってこられたのか。

また、25年7月に示された経営改善計画書を拝見しますと「何々したいと考えています」、「何々を行っていききたい」の言葉が多く、「これを実行する」、「やります」という強い意志が感じられませんでした。町長は今の状態でこのまま経営を行っていくつもりなのか。続けるならば、アベノミクスに負けにくいくらいの方針と東京五輪や尖閣諸島購入に先鞭をつけた石原議員のように将来を見据えた政策を示すべきだと考えます。東京五輪開催で観光事業の光明が見える今が決断の時と考えますが、いかがでしょうか、お答え願います。

これにて壇上からの私の質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 藤井要議員の一般質問についてお答えします。

#### 1. 災害対策について。

(1) 集中豪雨や駿河・南海トラフ地震への対策について。①「7月西伊豆町で豪雨災害が発生したが、当町における防災対策の現状と課題は」についてであります。

近年の集中豪雨の傾向を見ますと、短時間での豪雨が多く、荒廃した山肌を削り一気に濁流となったり、あるいは、土砂崩れを引き起こすなどして大きな災害をもたらしております。

当町の地形を考慮しますと、市街地を取り巻いて山々が連なっているため、土石流や地滑り、また下流域では浸水が心配されるようです。

町としましては、県と共同で雨季前に治山ダムや河川の点検を実施するなどして災害防止に努めています。また、浸水域の対策としては、現在松崎・宮内区を重点に平成28年度を目標に浸水対策事業を進めています。

今回の西伊豆町の被害状況を見ますと、河川上流からの土砂流出による被害が大きいことから、土砂流出を防ぐことが肝要と思われるので、山の再生が、遠回りかもしれませんが、減災に繋がるものと考えています。

②「県が公表した第4次地震被害想定（1次報告）から当町の防災対策の現状と課題をどのように考えているか」についてであります。

今回の第4次地震被害想定は、平成13年の第3次地震被害想定から12年ぶりの改定で、概要については去る7月30日の議会全員協議会で説明したとおり自然事象に基づく被害想定です。

今回の被害想定で当町の最悪の場合の最大死者数は、レベル1で約1300人、レベル2で約3100人と推計され、非常に大きな被害が見込まれています。また、当町にとって影響の大きなものとしては、これまでのレベル1の津波高が最大で6mが8mとなったこと、レベル1・レベル2ともに海岸線での1メートルの津波到達時間が4分となり、より迅速な避難が求められることとなったことが挙げられます。

全員協議会の際に岩科方面の浸水域がおかしいことから、県に再調査をお願いしていることをお知らせしましたが、その後、県からの報告があり岩科の山口の宇治橋付近まで達することが判明いたしました。その分、桜田方面の浸水深が下がっておりますが、この変更に伴う詳細は現時点では届いておりません。

県では、レベル1は防災、レベル2に対しては減災を目標に、アクションプログラムを策定し、10年間の整備目標を掲げて取り組むこととしております。町としましても、一人でも多くの人命を守ることを念頭に、今後町独自のアクションプログラムの策定を進め、防災・減災対策に取り組む予定であります。また、地域防災計画の見直しも進めておりますが、基本は「自らの命は自ら守る」にあると考えます。日頃から、災害時の避難方法等について家族等で確認しておくことが大切であると考えています。

2. まつざき荘の事業運営について。1. まつざき荘の現在の経営状態をどのように考え、今後どのように改善していくのか。①「4期連続赤字になった大きな要因はなにか」についてであります。

伊豆まつざき荘は、ご質問のとおり平成21年度から平成24年度まで4年連続赤字という厳しい経営が続いており、皆さまに大変ご心配をおかけしております。

その原因でございますが、外的要因として、平成21年度は、前年度に発生したリーマンショックによる景気の低迷に加え、新型インフルエンザ、駿河湾を震源とする地震、冷夏・長雨、ETCの休日割引、平成22年度は東日本大震災、平成23年度は震災と計画停電、平成24年度は新東名高速道路の開通や東京スカイツリーの開業など新たな観光地の増加を背景に伊豆地域の宿泊数の減少に歯止めがかからないことがあげられます。

また、内的要因としては、人事の硬直化、正規職員の減に伴う営業活動の減少や内部体制の弱体化が大きいのではないかと考えておりますので、職員教育の徹底と組織体制の強化を図り、

職員が一丸となって赤字改善に向け、邁進するよう指導してまいりたいと思います。

なお、町では4月1日より専任の施設管理係を置き、伊豆まつぎき荘と連携を密にし、経営改善に向け取り組んでいるところでございますので、ご支援をお願いしたいと思います。

②「黒字化に向けた具体的対策はあるのか」についてであります。

伊豆まつぎき荘の黒字化に向けた取り組みにつきましては、去る7月30日の議会全員協議会において経営改善計画でもご説明させていただいたところでございますが、コスト削減や利用者増により黒字化を図っていかなければならないと考えております。

まず、コスト削減につきましては、仕入れにおける入札の実施、企業債の借り換えなどがあり、借り換えにつきましては、先ほどの行政報告でご報告しましたとおり、これまで1.9パーセントの利率で借りていたものを、1.2パーセントに変更し、負担の軽減を行っているところでございます。

また、利用者増につきましては、料理メニューの改善、オフシーズンや平日でツアー客などへの割引企画、町民サポーター制度の活用、グリーンツーリズム事業の展開などを通して利用客の増に努めてまいりたいと考えています。

なお、町民の皆さまに愛され、必要とされる施設となるよう会食や温泉入浴のご利用をいただくとともに、施設を活用したイベント等を展開し、町内利用者の増を図ってまいりたいと思います。以上でございます。

○1番（藤井 要君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○1番（藤井 要君） それでは、再質問を行います。

町長は、先の災害において西伊豆町災害対策本部に参加したと思います。そこで、参加したからおわりのことと思いますが、安良里でしたか、田子に自衛隊がいたんですけれども、災害の復旧活動には参加しなかったということなんですけれども、災害対策本部に入っていたからおわかりだと思えますけれども、その理由を教えてください。

それで、多分出動要件は3つくらいあったと思うんですよ。公共性とか、〇〇とか、〇〇とかあったと思うんですけれども、なぜ自衛隊が出動できなかったのか。対策本部に入っていたからおわかりだと思えますけれども、お願いします。

○町長（齋藤文彦君） 議員は私が対策本部に入っていると言っていますけれど、よその対策本部に私が入るわけがありません。

○1番（藤井 要君） じゃあ、町長がボランティアというか、行ったと私は聞いていたもので

すから、それで、町長が行くんだったら対策本部だろうということでもいま質問したんですけれども、じゃあ、町長はボランティアというか、西伊豆・・・何しにどこへ行ったんですか。

○町長（齋藤文彦君） 私は西伊豆町で災害が起こって、「松崎町として何かできませんか」ということで本部に伺ったわけでございます。そこで西伊豆町長の方から、「町としては頼まないけれども」というような話がございます、私はボランティアとして参加したわけでございます。

○1番（藤井 要君） ボランティアに参加した・・・、何を町長はやってきたんですか。

○町長（齋藤文彦君） 何をやってきたと言いましても・・・、ボランティアとして、あれは社会福祉協議会が非常に何と言いますかね、賀茂郡の社会福祉協議会がうまく非常に連携して、その中でボランティアとして活動して、向こうに行きまして、「これとこれをやってください」というようなことで、それで参加したわけでございます。

○1番（藤井 要君） それでは、町長がいま言っている・・・、例えば田子とか安良里の現場に入ってやったということでもよろしいわけですね。

町長、私はそこで考えるんですよ。町長としての役割とは何か、町のトップとしての役割は何かということになりますと、私はもうてっきり町長が西伊豆町の対策本部に顔を出して、西伊豆町の対策本部が何をやっているか、そういう目で、トップとしての目で見ると私は普通であると・・・。

もし松崎町にそういう災害があった時にどういう采配をふるうとか、そういうのをトップとして私はもう当然やっていると思ったもので、そういう質問をしたんですよ。なんかちょっと・・・、じゃあ、例えば、確かに町長がやることは立派ですよ。今の答弁だと側溝の土を掘ったりとかをやったのかなということになるろうかと思えますけれども、やっぱりそこはトップとして考えがちょっと違うんじゃないか。

先ほど言ったように、もう広い目というか、視野を広げて、こういうのも必要だな・・・。だって、そこでスコープを使っていたらその現場しか見えないじゃないですか。その点はちょっと町長、考え方を。

○町長（齋藤文彦君） あのですね。よその災害対策本部へ別の町長が入ってうんぬんということとはなかなかできないと思いますよ。私たちであった場合、西伊豆町の町長が来たらこれは言いますよ。

私は災害ボランティアに参加していろいろ情勢を見てきますけれども、災害本部の対策というのは大体こうやって見えていますので、大体の様子はわかりますよ。ただ、町長として西伊豆の対策本部に入るということは、これはなかなか町長としてはできないと思いますよ。

○1番（藤井 要君） それはですね。常日頃隣町として町長は年中一緒に車で沼津に行ったり、下田に行ったり、静岡に行ったりとかやっていますよね。そして、これは本当かうそかわかりませんよ。違うところの町長さんたちとかは来たりとかもしているということもちょっと聞きましたので、そういう面から町長は積極的にそういうところに入ってやったのかな、すごいな町長はと思っていたんですよ。

いま町長が言いましたようにね、入っていけないということでもありますけれども、本来ならトップとしてやるべきじゃなかったかなと思いますけれども、これは見解の相違になりますからね。

○町長（齋藤文彦君） 私は西伊豆町の町長とは非常に連携がとれていると思います。ただ、西伊豆町長から「町長、頼むよ」というのだったら行きますけれども、こっちから直接入っていくということは、なかなか町長としてはできないと思いますよ。

○1番（藤井 要君） これ以上やってもあれですけども、町長はやっぱりトップとしての強い意志そういうのをやっぱり積極性も見せるべきだなと私は思います。

次に、先ほどちょっと山の整備というようなこともありましたけれども、災害になったの条件はいろいろあると思いますよ。

私も朝の5時頃起きて8時半頃までかかりましたね。宇久須の方からずっと宮ヶ原の上の方までバイクで見て来ました。8時か9時頃行くと皆さんがやっていて、ただバイクで私が眺めているだけだということだと、松崎町長みたいに汗を流してスコップをとということ・・・。「なんだ、松崎の議員は」なんてことを言われると困りますので、朝そういうことで見ましたけれどもね。

条件がいろいろ、先ほども西伊豆町の条件、山が急勾配があつたりとか、それでいろいろ小さな沢がたくさんあつたりとか、松崎とちょっと条件は違うんですよ。松崎はちょっとラッキーかなと思っております。本来だったら先ほど言いましたように、いつ起きてもおかしくないところを助かっていると・・・、町長は選挙も無投票、災害もない、今回はまたどうなるかわからないけれど、非常にラッキーな人間でいい人生というか、星の下に生まれたなと思っていますけれどもね。そういうことで私もバイクで見て来たわけですけども、災害が起こった時に土砂崩れなんかでいくと軽四輪では見に行けないというようなことが多々あると思うんですよ。そういう時にやっぱりここに、下の駐車場なんかを見ますと大型か中型かはわかりませんが、バイクに乗っている方もいますよね。そういうのでモトクロス用のバイクとかも必要じゃないかと思うんですよ。あの幼稚園のリヤカーを否決されたらすぐ買ったじゃなくて、やっぱ

りバイクあたりも先にそういうのも準備しておくのがいいんじゃないかと思うんですよ。災害が起こった、バイクを買え、リヤカーを買えじゃなくて、そういうことも必要じゃないかと思えますけれども、その点はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 私の誕生日は11月3日で文化の日です。議員が言うように非常にめぐまれているのかなというところがあります。ただ、いま藤井議員が言うオフロードバイクのやつは、ぼくらのところはほとんど小さな集落は辺地にあるわけですから、そのような時ほとんど身動きが取れないような状態になると思いますので、そのようなことをやっぱりしていく必要があるのかなと思っています。

それから、四輪駆動等がありますけれども、細い道はなかなか行けませんので、自分もバイクに乗って走っていますけれども、そういうのは必要かなと思っています。いますぐ買うというわけではありませんが、そういうことを考えながらやっていきたいと思っています。

○1番（藤井 要君） ぜひ検討してください。町長も見てみると、小さいモンキーバイクですか、あれは。雲見というか、あそこでモンキッキキーなんてカーブを曲がったりもしていますけれども、ぜひよろしく。

そして、バイクで私が見て、町の山林の環境整備というのが非常に大事だと思っていて、そして、松崎は砂防ダムなんかがあちこちに大きいのがあって、那賀川でいけば内沢川、桜田沢川、それで岩科の八木山の上の方なんか・・・、最近ではね。ああいうのを造ってくれて砂防にうんと貢献しているんじゃないかと思うんですよ。

ですから、そういうのを、いまそういう危険箇所があるのか。そういうところは必要と感じている、そういう計画はあるのか、どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 松崎の地形を見たとおりに、ほとんど急傾斜地があって囲まれているわけですから、そういうところはいっぱいあると思います。

ただ、私は森林の整備をうんぬんと言いましたけれども、本当はこの照葉樹林みたいなやつが山を囲んでいて、その落ち葉が積もって、それが自然のダムとなるのが一番最適だと思うわけですが、今はほとんど杉・ヒノキが松崎の山には植わっているわけで、そうすると、今はシカとかイノシシが本当に茎とか幹を食いまして、荒らされて、雨が降ると本当に崩土と化すようなところでございます。やっぱりそのようなことをちゃんと地道にやっていくのが一番強い防災対策ではないかなと私は思っています。

○1番（藤井 要君） それじゃあ、いま町長の答えがありましたけれど、これは課長に聞いた方がいいと思いますけれども、もしそういう箇所、やる必要があると感じている所は何か所あ

るのか、あるとすればですよ。

そして、いま私の、那賀川の内沢川と言いましたけれども、そこに登るとかなり土砂が満杯になっているんですよ。もしそういうのは排除するものなのか、それとも満杯になったら、例えば崩れる・・・、満杯になった土砂をかき出すとまた流れてきますから、上方にダムを造るのか、それとも下に余裕があれば下に新しいダムを造るのか、その辺のところはどうでしょうか。

○産業建設課長（山本秀樹君） この間の大雨は本当に雲が少し南側にずれたら松崎町も危なかったなというのが実感としてあります。

松崎町の危険箇所については、急傾斜の危険箇所というのが 123 カ所あります。その内危険区域として区域が指定されているのが 18 カ所ということで、見渡せば山が切り立って迫っている所が多いものですから、まだまだたくさんカウントすれば出てくるのかもしれませんが、今の指定状況はそういうような指定状況になります。

ダムの関係ですけれども、一様に谷にコンクリートでダムがありますけれども、その中には治山ダムと砂防ダムという 2 つがあります。それぞれ性格が違いまして、砂防ダムというのは、土石流危険区域みたいなのがあって、一般論で言えば下流に家屋がある所に造るのが砂防ダムでございます。治山ダムというのは、どちらかというと山自体の崩壊を防ぐ山体を守るのが治山ダムということになります。

要するに、治山ダムの方は災害の抑制という考え方ですね。砂防ダムは災害の防止という考え方になるわけですけれども、砂防ダムの方は土砂を防ぐというのが目的ですから、要するに深さを保っておいて、そこに流れてきた土砂を溜めこんで下流に流れていくのを防ぐというのが砂防ダムです。

ですから、砂防ダムは満杯になればまだ掘り出して、そこにスペース、余裕のスペースを作っておいて、いつでも受けられるようにしておくというのが砂防ダムの考え方です。

治山ダムというのは、こういう急傾斜の川の所に造って、そこに土砂を溜めて、山の・・・、一時ダムのところは下に落ちますけれども、それ以降はまた平らになるということで、急勾配の川をある程度平らにならすという・・・、治山ダムはだからそういう意味合いでいくと、治山ダムは満杯になって能力がはじめて発揮するということで、治山ダムは掘らないというようなことになります。性格が先ほども言ったように抑制と防止という 2 つの性格があるということです。

○1 番（藤井 要君） 砂防ダムと治山ダムの関係はわかりました。

先ほど私が言いましたバイクの関係等もそういう箇所なんかもやっぱり平常時でも見に行く必要があると思いますので、先ほど言ったように山の管理と合せながら、バイク等でやってく

れるのも・・・、そうすれば、例えば、水道の水源なんかに行くのにもそういうふうに関に立つと思うんですよ。私がそういう話をしましたら、ある一般市民の方ですけれども、「それは無駄だよ。バイクなんか買ったって、どうせ役場の職員は、ほこりが溜まってもったいないよ」ということも言いました。そういうふうに見られている面もありますので、もしあれだったら、買ってくれたら有効に使って・・・、やってもらいたいなと思います。

それで、危険防止の関係でそういうことをやる、区長さん、地区の方とか見回ってもらって予防の面からやっぱりだめになる前に素早く対応するというので、そういうやっぱり組織づくりですか、そういうのもやってもらいたいなと思います。そういうことでよろしく願います。

次に、第4次被害想定との関係ですけれども、先ほど町長は県へと陳情に12人ほどで行きましたよと・・・、この陳情の様子というか、相手のどのような回答があったのかお聞かせ願えれば、願います。

○町長（齋藤文彦君） 要望活動に行ってきた。松崎町は皆さんご存知のとおり平成11年に水門のことで国庫事業採択を受けて一回住民の意見が集約できず、いま休止状態ということになっているわけですけれども、やっぱり県の方でも陳情に行っても「本当に松崎町はやる気があるのか」というような非常になんと言いますか、厳しい状況でございます。

ただ、いろいろ話をしていく中で、アクションプログラムの中に防潮堤の嵩上げを含めた水門も入っているということで、私は去年の8月22日に那賀川河口治水対策検討委員会の中でも水門は防災に対して非常に有効であるというようなことをいただいていますし、また、松崎町は観光地でありますので、もし造るとしたら、観光に配慮した水門というようなことも言われていますので、そのようなことを切々と訴えるということでございます。

ただ、水門に関しては、那賀川は県が管理しているわけで、松崎町が造るわけではありません。県が造るわけですから、松崎町が願うわけですから、これから何回も陳情に行く必要があると考えています。

○1番（藤井 要君） いま県が造るわけですので、そうすると、県次第ということになる。もちろん松崎が一致団結して願いますというようなことにならないとなかなかできないわけだと思いますけれども、計画等、例えば、県に陳情にした、じゃあ、県が地質調査に入ります。そうしたら、松崎町か、県が土地の買収等をやるのかわかりませんが、ちょっとその辺の流れみたいなものがわかれば願います。

○町長（齋藤文彦君） 詳しいことは後で課長が答えると思いますけれども、ただ、松崎の熱意

を県の方に伝えて、造るよというような形にしなければいかんと思います。

それで、先ほど申しましたように、観光地ですので、松崎町に合った水門というのを私たちも一生懸命県の方をお願いしていくつもりでございます。

そして、ある程度の形ができたなら県の方から設計図等が出てくるといいますので、町の皆さんに「こういうものができますよ」ということで説明して、また、その町の皆さんの意見を集約していくことになると思います。

○1番（藤井 要君） 課長が答える前にもう一つ。

町長がここは観光地だから観光地に合ったというようなことがちょっと出たもので、町長、観光地に合った水門とかそういう防災、町長の考えはどういうあれですか。

○町長（齋藤文彦君） 具体的なイメージはありませんけれども、それは県の方との話し合いでどのようになるかわかりませんが、私としてはそれなりのイメージは持っています。

○1番（藤井 要君） 私はいまだどういイメージか聞いているんです。教えてください。

○町長（齋藤文彦君） まだこの場で答えられるような・・・、ある程度形がはっきりしたら・・・。

○1番（藤井 要君） 頭の中にはまだないということですよ。わかりました。

○町長（齋藤文彦君） 頭の中にないというのはちょっとどういう意味かわかりません。

○1番（藤井 要君） イメージがないと言ったから、私は頭の中にないと言ったんですよ。

○町長（齋藤文彦君） 水門を造るかどうかもまだはっきりしないわけで、これから本当に県の方をお願いして、松崎の意思をちゃんとしっかり伝えていかないと水門というのができないと思います。そういうことでございます。

○1番（藤井 要君） 課長の意見を飛ばしまして、それでは、いま町長、まだ県が造るか造らないかわからないということですよ。でも、町長はあそこで造りたいと所信表明しているわけですよ。そうした時に、まだわからない。

私がもし町長でしたら、町民の意見を造るという方向にもっていくために広報を使ったりとか、広報の裏側に町長こんにちとはとかなんか知らないけれども、そんな欄がありますよね。そういうようなところで私はいつもだったら訴えますよ。「私は水門を造りたい」、「松崎をこういうふうにしたい」とやりますよ。あれから、出てから1年経ちますけれども、町長、そんなのなかなかないでしょう。

そして、先ほど課長の方から「議員の協力をお願いします」と言たって、町民がどうなるのか、まだわからないとかで議員がそんなには動けないと思いますよ。町民だって、私が松崎の中を回っていると、この前のアンケートですと60何パーセントですか、賛成でしたということが

出ていますけれども、個々に回っていくとなかなか総論賛成各論反対みたいなことで、私だっ  
て回っていて困るんですよ。

町長がやっぱり松崎町民を引っ張っていく、これはオバマかケネディか忘れてしまいましたが、  
町が町民に何をしてあげるかじゃなくて、町民が町に何をしてあげられるか、そういう意識  
を・・・例えば、町長さん、私らは怖いよ。だから、水門を造って欲しい。だから、ここの土地  
も私らが話し合っってここを提供してもいいよ、町長さん、ぜひお願いします。そういうような意  
識がまだなかなかないと思うんですけども、そういうのも町長が発信するのもそれは町長、  
トップの人の役目じゃないですか。もう一度。

○町長（齋藤文彦君） 町長が水門に関して発信していないというのはちょっとわからないわけ  
で、私はこの席上で水門建設の一般質問に答えた時に、皆さんはご存知のとおりと思いますけ  
れども、岩手県の大槌町の役場の前に行ったと、そして、この惨状を見て、ちょっと左手を見たら、  
小高い丘があってそこにお墓が建っていたと、先祖さんはこの惨状を見てどのように感じて  
いるのだろうか・・・。松崎町をこの町にしたいと、そして、私は水門は必要だとこの議  
場で私はちゃんと言っているわけですから、これ以上のことはないじゃないですか。

そして、私は宮古の閉伊川のあの惨状を見まして、閉伊川に沿って黒い大きな津波が入って  
きて、それが町中に入っているあの映像を見まして、いつも夜うなされることがありますけれ  
ども、そのようなことを考えていまして、私は陳情に行っているわけでございますので、ぜひ議  
員の皆さんも町民の皆さんがうんぬんというより、選ばれた町議として、私は水門に対して反  
対か賛成かというのをちゃんとはっきりして、今度陳情に行く時には議会からも出てもらいた  
いなと私は考えているところでございます。

○1番（藤井 要君） そういう強い意志を持って当ってください。議員にも当ってください。

あとですね。これは避難タワーの関係になります。壇上の質問から言いましたけれども、第1  
次想定で水門がいまできましたと、そして嵩上げもできましたと、いうことになった時に、多分  
被害ゼロというような町の広報、この前の説明でありました。それを見て、でも、その開いてい  
る間、避難タワーとかで逃げなければならない。そして、例えば水門ができたとしても第2次被  
害想定では乗り越してくる。そうした時に被害想定浸水区域とかがダブるわけですよ。そし  
て、それ以上に大きくなる可能性があるわけですよ。図面を見ますと。

そういうところから考えて、そのタイムラグとか危険を少なくするために、いまタワーの状  
況はどうなっていますか。なんか話によると二転三転しているみたいですけども。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど課長が話す機会がなかったなので、後で詳しい話をしてもらいます

けれども、いろいろ 100 メートルの円を描いて松崎町内を見まして、どうしても弱い所が、西区と南区というのが一番弱いということで、西区の区長さんの方から3カ所ここに避難タワーをお願いできませんかというのが来ました。そこでいろいろ検討しているところですけども、町有地ではありません。私有地ですので、なかなか話しが進まないところが非常に残念なところでございます。いまこれはという所があるわけですけども、なかなか周りの人の関係もありまして、進まないところでございます。

後は課長の方から答えます。

○総務課長（金刺英夫君）　いま予定しております地域につきましては、町長が言いましたように候補をいただきまして、その中の正直なところ2番目にいま当っております。

今回この関連で補正予算もまた追加をお願いをするような形でおりますので、またその辺はよろしくお願ひしたいと思います。

予定している所につきましては、海拔で3メートルちょっとの所へと浸水深が大体4メートルから4メートル60、7メートルから8メートル位の高さまで津波が来るといふような想定をいただければ結構かと思っておりますけれども、そこへと12メートルのものを建てようというようにすることで、当初予算の時に説明してあるかと思っております。

2番目の候補地もそれほど当初の候補地と離れておりませんので、同じような状況というふうな形で理解していただければ結構かと思っております。

そういったところで、今のところ用地の交渉をほぼ了解いただいているというようなところまできております。以上です。

○1番（藤井 要君）　じゃあ、いま用地の交渉がいいところまで来ているということですので、早く安心・安全のためにお願ひしたいと思います。

これは私の持論になりますけれども、いつ起こるか、どこで起こるか、起こる場所によって被害想定が違ってくるわけですね。5000メートルの範囲で駿河湾の中で起こるか、これもわからない。そういうことを考えて、あとですね。2035年には4800人位の人口になると言われているわけですね。

そして、例えば、いま2013年ですけども、20年後として4800人位、30年だと4500人、もっと4000人を割る位になるわけですよ。そうした場合にそれでいいのか、あと何年かかるかということをして、県のやり方次第だということですので、わかりませんが、私が小さい頃浜へ行くと、はまぐりも採れました。松林があつて、岡村造船のところからずっと歩いて西伊豆の、あそこの弁天さんのところに川がありました。あそこを渡ってあっちへと行ったような

覚えがあるわけですよ。そして、高校生か中学生の頃かな、あの浜の所に町営住宅がいっぱい・・・、それは松林を伐採したのか、それはちょっと私もわかりませんが、そういう自然を壊した。自然と対峙しちゃったと、そういうところで人口も少なく自然回帰ということで、昔に帰るのも必要かなと、そして、東京あたりの直下型とかいろいろあります。一極集中で人口はそちらにもっていかれます。

そうした場合に、どんどん、どんどん少なくなる。癒し、自然の癒しの場としてそういうのを残すのも町民の中で二分しているようなそういうのを私は第三の方法として高台はつくる。そして、ある程度松崎のグランドあたり、これもガレキなんかでやられると思います。だから、そこで例えば条例なんかを作って、もう廃屋になっていたりとかなかなか使わないような家、ほったて小屋とか、そういうのも条例によって撤去してもらって、そして、ガレキが流れてそれが被害を及ぼさないなんていうのもこれも方法かなと。今度またなにかの機会に言いますが、そういう条例も必要かなと思います。

時間の関係でまつぎ荘に入りますので、議長、延長をお願いしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。5分延長します。

○1番（藤井 要君） いま言ったことを頭の中に入れて検討してもらいたいと思います。

それでは、先ほどから出ました松崎町の陳情の関係がありましたけれども、まつぎ荘は4期連続赤字ということで先ほど私は抜本的な改革が必要だろうということでしたけれども、町長、まだまだ黒字化に向けた具体的な対策ということでコストの削減、料理のメニューを変えたりとか、そういうことですけれども、これだとなかなか改善が目に見えてこないんじゃないかと思うんですよ。これは名前を出しても大丈夫だと思いますけれども、S関係の会社、もと静岡にありましたけれども、それは全国展開している。そして、最近では熱川、南伊豆でこれはまだ未公表でしょうけれども、なんか隣の方にも同じ会社が入ってくるというようなことをちょっと耳にしました。そういう点から、今から東京オリンピック、あと7年後ですか、景気が良くなるかもしれない。ですけれども、まつぎ荘を売るということではないですよ。よく売り頃・買い頃というのがあるわけですよ。企業の中には。

ですから、10年後、20年後を考えた場合に、赤字をずっと続けてきた。東京オリンピックで経済が良くなってまつぎ荘が黒字になるかもしれない。

でも、そういう長いスパンを考えたら丁度売り頃かな。また消費税が入りますよね。たぶんこれは入ってくる。そして、何年か後には入るわけですよ。8、10・・・、そうした時に、今のこの状態で・・・、今回だって去年より悪いですよ。いま。

そういう中で持ちこたえられるのかなと考えるわけですが、町長、その点は売り頃・買い頃、そして、もう1点、大沢温泉ホテル、これはもう名前が出ていますから。そうした時に、なかなか私がトップでも買えということでは、ちょっと買うのは難しいかなというのがあり、私の中では、いくらだったら買っていいのかな。まつぎ荘と大沢温泉ホテルとジョイントして、何かうまく相乗効果、1足す1は3くらいに、そういうふうにならないのかなとか、いろいろ考えるわけですよ。自分が。

町長、その点はどうですか。町長の頭の中で考えているようなことは。

○町長（齋藤文彦君） まつぎ荘の売り頃とかなんとかは全然私の頭には入っていません。私は、「日本で最も美しい村」連合に入ると思ったのは、稲葉議員の質問で松崎は「花とロマンのふる里づくり」でやってきたと、それで、路線を継承するのは町としても楽だと、職員としても非常に楽だということを言われました。そのことがものすごく頭に残ってしまっていて、私はこの「日本で最も美しい村」連合に入ることによって切磋琢磨してみたいということがございます。それで、まつぎ荘に関してもこういうことがあって、いままつぎ荘が何と言いますか、今年若干人数が増えたわけですが、それはやっぱりトレイルランニングなんかの松崎の行事というのが増えるとお客が増える傾向にありますので、もう一度この7大イベント、その他諸々の松崎でやっている行事とか何とかをもう一度見つめ直して、強力にやっていきたいと、そうすれば、まつぎ荘は、私は、全町まるごとふる里自然体験学校、体験を通して対価を得る、教師は町民であるというのをずっと訴えているわけですが、私はまつぎ荘はグリーンツーリズムの総本山になれると思っていますので、ぜひ「日本で最も美しい村」連合に入って、まつぎ荘も一緒に盛んにやっていきたいなと私は考えています。

○1番（藤井 要君） あれでしたか、課長、まつぎ荘は利用人員は下がりましたよね。違いましたか。

○町長（齋藤文彦君） 前年度決算ではちょっと増えているんですけど、今回はちょっと減っているわけですが、その時で・・・伊豆トレイルジャーニーがあったので、増えたというようなことを聞いていますので・・・。そういうことですので。

○企画観光課長（山本 公君） 町長が増えていると言うご回答をしましたが、人数、利用人員の関係で、平成24年の利用人員が1万9748人、その前が1万8761人ということの中でご回答をさせていただいたところでございます。ただ、先ほど状況報告で説明しましたが、以降また今年度厳しい状況になっております。

○1番（藤井 要君） 町長が花とロマンのふる里人間と、町長はそしてグリーンツーリズム人

間であるということは私も承知しております。

まつぎき荘のことは考えていないなんて・・・、それをやることによってまつぎき荘が活性化してくるのではなかろうかということでしょうけれども、なかなか・・・、先ほど限界がるということをも私も申し上げております。その点では町長と私の意見が違ってくるわけですが、なるべく人に任せられる、人が任せて欲しいという時が売り時・買い時のことと思うんですけれども。やっぱり身軽になって、町長、やることも必要じゃないですか。

町長が前に、私は役場の職員とまつぎき荘の職員の垣根を低くして、松崎の職員にももうちょっと関心を持たせるようにということを言いました。

この前の時に、毎日でも朝出勤する時にまつぎき荘に寄って、そしてちょっと見回って、緊張感をというようなことでしょうけれども、それを毎日やれとは私も言いません。やれないことはわかっています。でも、やっぱり長いスパンを見て、町長、考えた方がいいんじゃないですか。そして、ある程度やっぱり身軽になって、行政をしっかりする、防災に取り組む、そういうことも必要だと思いますよ。まつぎき荘の赤字で頭が痛い、防災のことで頭が痛い痛いなんて町長は頭の中がたたくさん・・・、広いですから、できるのかもしれないけれども、やっぱり少し町長、肩の荷を降ろして、そういうのも必要じゃないですか。ねえ、副町長、違いますか。

1分ということで、そういう今の話についてどうですか。まったくばかなことを言っていると・・・。

○町長（齋藤文彦君） まつぎき荘は本当に理事長として頭の痛い問題で、いつも頭のここにあるわけですが、私はまつぎき荘は松崎のシンボルとして、松崎の町民の誇りの心の宿泊所としてやっていきたいなと私は痛切に思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 時間ですので。

○1番（藤井 要君） いろいろと今回まだまだ松崎小学校の太陽光の蓄電設備があるのかなんてこともちょっと忘れてやっちゃいましたけれども、またあとでそういうことは教育長の方に聞きたいと思います。

町長、この次、12月1日ですか、頑張ってもらって松崎のために一生懸命やってもらいたいと思います。私の質問はこれで終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時35分）

---